

図書館 ― 利用サービスの向上目指し3年次生にアンケート調査

視聴覚・電子資料の充実に期待

<調査概要>

図書館では、学生利用者が、図書館に対してどのような要望や期待を抱いているのか、改善すべき課題は何かを明らかにするためにアンケート調査を実施した。図書館に来る学生と来ない学生には、どのような意識の違いがあるのか、図書館の今後の利用サービスとして、どのような可能性があるのか、また、学生は図書館に何を望んでいるのか、などが調査目的の主旨となる。

実施対象は、3年次生(一部学生4,528人)とし、6月28日付でアンケート用紙を自宅に発送し、7月24日までに、直接持参または郵送により回収した。回答は無記名で、有効回収数は740(男性339、女性365、不明36)であった。回収率は16.3%で、回収率が最も高かったのが文学部の約28%であり、次いで商学部が約15%、他の学部は13~14%であった。

アンケート調査は、全17項目、約40問で構成されている。その中から、主だった調査結果を紹介する。

<調査結果>

(1)利用頻度による利用者の分類と特徴

このアンケート調査では、図書館の利用時期を〈授業のある時〉、〈試験の時期〉、〈長期休暇期間中〉に分け、〈授業のある時〉と〈試験の時期〉にどれくらい利用したかによって、〈高利用者層〉、〈中利用者層〉、〈低利用者層〉、〈未利用者層〉に分類して分析した。

図書館の利用頻度については、授業期間に〈ほとんど毎日〉または〈週2~3回〉利用しているのは全体の37.3%であった。〈ほとんど利用しなかった〉または〈全く利用しなかった〉学生は9.2%であり、その理由は、図書館を〈利用しなくても特に困らない〉が44.1%と突出していた。

〈図書館員による「図書館ツアー」「図書館案内」への参加意向〉、〈教員からの「本学図書館の利用の探し方や利用方法の指導」の有無〉についての設問では、高利用者層ほど「図書館ツアー」などへの参加率が高く、教員からの利用指導もあることがわかった。

図書館の今後に期待する利用目的としては、〈視聴覚資料の利用〉(49.9%)、〈インターネット〉(31.1%)、〈CD-ROMの利用〉(19.2%)など、視聴覚・電子資料への期待が高い。特にCD-ROMは〈今までの利用目的〉が2.0%であり、現在の利用は少ないが、今後の利用需要はある。

視聴覚資料やCD-ROMの収集方針や図書館サービスのあり方を示唆していると言える。

(2)自由意見

本学図書館に対して望むことや、日ごろ思っていることの自由意見では、開館時間の延長、日曜開館、飲食物の持ち込み、新刊書や視聴覚資料の充実など、さまざまな意見が寄せられた。カウンターでの対応については、「親切に相談に乗ってくれてよかった」などがある一方、「図書館員の態度がよくない」、「いやな思いをした」と、耳の痛い意見も。また、「自分のパソコンを持ち込みたい」、「学生証を忘れて入館できなかった」

など、すでに行っているサービスや対応が知られていないため、図書館が十分に利用されていないケースもあって、図書館活動の周知方法や広報に課題があることもわかった。

<報告書>

このアンケート調査の分析結果の詳細については、『専修大学図書館利用アンケート報告書(仮)』として冊子体にまとめ、また、ホームページや「図書館だより」にも関連記事を掲載している。

専修人の新しい本

基本マーケティング用語辞典【新版】

出牛 正芳編著

最近のビジネス環境のドラスティックな変化を踏まえて編集されたマーケティング辞典である。その特徴は、マーケティングを学ぶ上で最も基本的と思われる用語はもちろん、マーケティングの理解を深める上で最新のより高度なコンセプトや分析方法、それにマーケティングと関連の深い隣接諸科学分野の新たな動向をカバーしていることにある。

編集には本学経営学部のマーケティング担当教員があたり、他に経営学部、商学部、ネットワーク情報学部の教員も加わり、この分野に造詣の深い学内外の38人の研究者・実務家によって執筆されている。コンパクトで、わかりやすい解説と系統的に専門用語が理解できるように工夫されている。(白桃書房 本体2500円＋税)
編著者(でうし・まさよし)＝本学理事長、名誉教授。専門はマーケティング。

近代日本関係英国資料集成 補遺2

島田 孝右編

史料83点を集めた補遺2(全2巻)の刊行で、既刊の全26巻とあわせると28巻になり、まさにライフワークである。来年はさらに積み残しの史料と総索引(全6巻)が予定されているようである。これに19世紀関係の史料集刊行が決定しており、日英交流史の研究者にとって朗報である。補遺2の中では、特にツェンペリー著『ヨーロッパ、アジア、アフリカ旅行』、カント著『永久平和』が注目に値する。(本の友社 本体16万円＋税)

編者(しまだ・たかう)＝商学部教授。担当は英語。

学生自治会による新潟県中越地震義援金活動について

先般、神田・生田学生自治会が中心となり、体育会本部、連合県人会が協力し、義援金活動を行った結果、教授会、職員、一般学生、育友会をはじめ学生食堂の方からも協力を得て、35万5500円の義援金が集まりました。ご協力いただいた皆さまには深く感謝申し上げます。

なお、本義援金については大学を通じて、公的機関に寄付いたしました(1面参照)。一日も早い復興を心より祈念いたします。

【ニュース専修2004年12月号3面】